

平成22年度環境技術実証事業検討会

小規模事業場向け有機性排水処理技術分野

ワーキンググループ会合(第2回)

議事要旨

1. 日時：平成23年3月24日(木) 14:00～16:00

2. 場所：航空会館 703会議室

3. 議題

- (1) 実証試験結果報告書の検討について
- (2) ロゴマークについて
- (3) 実証試験要領の見直しについて
- (4) その他

4. 出席検討員：藤田正憲(座長)、徐開欽、中井尚、名取眞、宮腰智裕

実証機関：社団法人埼玉県環境検査研究協会

事務局：環境省、財団法人日本環境衛生センター

5. 配布資料

資料1 平成22年度環境技術実証事業検討会 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野ワーキンググループ会合(第1回)議事概要(案)

資料2 平成22年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野のこれまでの経緯について

資料3 平成22年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野実証試験結果報告書(案)(委員限り)

資料3-1 食肉加工工場対応型 グリス・ECO(グリスエコ) FOS-900-1200/株式会社大都技研((社)埼玉県環境検査研究協会)

資料3-2 GTオーバルシステム/株式会社ベストプラン((社)埼玉県環境検査研究協会)

資料4 拡大ワーキンググループの実施報告

資料5 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野 実証試験要領の見直しについて(案)

資料6 ロゴマーク(案)について

資料7 今後のスケジュール（案）

参考資料1 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野 実証試験要領（第3版）

6. 議事

会議は公開で行われた。

（1）実証試験結果報告書の検討について

事務局から資料2に基づき、小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の今年度の経緯について説明。引き続き、実証機関（社団法人埼玉県環境検査研究協会）から資料3-1、3-2に基づき、実証試験結果について説明。主な検討内容は以下のとおり。

- ・食肉加工工場対応型 グリス・ECO（グリスエコ）FOS-900-1200 については、既存データの有効活用という面も含めて、特に問題なしと判断され、実証機関による最終チェックを受けることで了解された。
- ・GTオーバルシステムについては、効果が判断し難い技術であるが、時期等のイレギュラー的な問題も踏まえて、平成22年度分として追加試験等を行い、できる限り早期に有効な技術として実証していくことが確認された。

（2）ロゴマークについて

事務局から資料6に基づき、ロゴマーク（案）について説明。主な検討内容は以下のとおり。

- ・平成22年度以降の本分野におけるロゴマークとしては、分野名、実証番号、実証年度、「第三者実証の結果を公開している」旨を盛り込んで表記することが確認された。

（3）実証試験要領の見直しについて

事務局から資料4、資料5に基づき、実証試験要領の見直しについて説明。主な検討内容は以下のとおり。

- ・「環境技術実証事業 実施要領」と「有機性排水処理技術分野 実証試験要領」の整合性については、今回の【全ての実証試験結果報告書は、実証試験結果の如何を問わず、・・・ウェブサイトに登録され、公開するものとする。】という実施要領の内容は、第三者実証なので出すことが基本だというスタンスであるが、実証試験要領では、実証試験場所や方法を十分に練ってやることが前提であり、実施要領と実証試験要領では目指している方向が違うことを認識する必要がある。その上で、本分野の自主性や発展性を踏まえて、実証機関と実証申請者との協調性に影響を及ぼさないような現在の内容を維持しつつ、実証技術に応じたより正確な対応で臨むことが確認された。
- ・同一の原理・規格を使った技術（OEM技術）申請への事前対応については、ヒートアイランド対策技術分野の建築物外皮の問題が発端になっている。本分野では同じ薬剤

を使って、装置だけが違う場合などが想定されるが、内容がそぐわない面が多い。関係者間（技術開発者、販売事業者など）での調整は重要と考えられるが、実証試験要領での対応までには至っておらず、実証技術が申請された時点での柔軟な対応が必要であると判断された。

（４）その他

今回の会合については公開であり、議事要旨についてはホームページに公開することが了承された。

以上